

## 第7回 2年生のための『キャリアガイダンスⅠ』

～文学部生の進路を考える～

日時：2019年7月16, 18日(火)16:20~17:50

場所：文学部B251講義室

講師：和田侑里子氏(株式会社リクルートキャリア)

今回のリテラアワーは、これまで就学相談室に寄せられた2年生からの相談を踏まえて、新たに2年生向けに開講したガイダンスです。株式会社リクルートキャリアの和田侑里子さんをお招きして、と題してお話し頂きました。

最初に、就学相談室長の井内教授より、この講座の目的は①自分は何者であるかを考えるきっかけにする、②3年生での職業選択の心構えをする、ことであるとの挨拶がありました。

さて、和田さんのお話を以下にまとめます。これまでの進路相談は模試を受けてどの科目を頑張るかを考えるものでしたが、これからはどんな風に社会で活躍したいかを考えるものです。そのために、4つの項目に関してお話しします：①文学部生の進路の選択肢と特徴を知る、②就職活動とは？スケジュールや仕組みを知る、③「自己分析」を体験する、④これからの学生生活をどう過ごすか考える。

①について：主な進路には大学(学部)を卒業して就職というものと、大学院に進学した後に就職をするものの大きく2つのルートがあります。主な就職先としては、教員、企業、公務員、公的研究機関・大学・大学院が挙げられます。

一言で教員といっても、公立・私立学校×中学校・高等学校とあり、また公務員にも、国家公務員・地方公務員×行政(事務)系・専門系があるように選択の幅は広いのです。さらに、国家公務員の職種には総合職・一般職・専門職が、地方公務員の採用区分には地方上級・地方中級があります。

民間企業にも業界(産業そのもの)／業種(何の商いをやっている会社か)／会社×職種(どんなことをやる仕事に就いているか)の選択の幅があります。ここで注目点として、たとえば営業職でも新規開拓よりもルート営業が多いこと、そしてMR(医薬情報担当者)は文系でも活躍できること、が挙げられます。

②について：現代社会(労働市場)は、人口減少、産業構造の転換、IoT, AIの時代、価値観の多様化などで、変化を迎えています。これに伴い、社会から求められる力も、「決まったこと」を実行する能力から、「社員一人一人が自走して課題解決できる能力」へと変化しています。また、求人倍率(就職希望者一人に対してどれだけの求人があるか)は1.88倍で売り手市場と言われていますが、会社の規模別にみると、300人未満企業の求人倍率が9.91倍と急拡大する一方で、5,000人以上の大手企業求人倍率は0.37と過去最低になっていることに気をつけなければなりません。このような状況で、就職活動(そのスケジュールを考えたときに、公務員(教員を含む)と民間企業との併願は多忙を極めます)をする上で、重要な準備として、「自分のことを知る(自己分析)」と「仕事のことを知る」を繰り返し行うことが重要です。

③について：自己分析は就職活動の基本です。選考過程での三大質問は、自己PR、学生時代に頑張ったこと、志望動機です。ここで、参加学生に「あなたの強みは？」というワークを行って頂きました。よく言われる社会人基礎力には、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力があり、自分の強みはどれに当てはまるのでしょうか。また、自己分析において重要なのは、華やかな体験、人と違う体験、自慢できることではなく、自分らしさを表す体験(悩んで決めた、得るもの

があった、頑張っている、悔しい思いをした、失敗と感じた)です。

④について：3年生はあっという間にやってきます。社会人基礎力を身につけ、磨く経験のために、2年生の夏休みを有効活用しましょう。そのためには、計画をする(Plan)、実行する(Do)、評価する(Check)、改善する(Act)のPDCAサイクルを考えましょう。ここで、参加学生にこの夏休みの計画を立ててもらいました。計画も具体的なもので、また、なぜそれを目標にしたのか、その目標が達成されると何が得られるのかも考えました。

進路を幅広く知るために、インターンシップがあります。これは在学中に、企業等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うものです。インターンシップにも、座談会型(1日~2日間、募集人数多い)、グループワーク型(3日~2週間、募集人数比較的多い)、実践型(1週間~1ヶ月、募集人数少ない)があります。また、開催時期も8月と2月が多く、2年生から始めると参加できるチャンスが多いです。応募については、大学経由のもの(各種HPやリクナビなど)のものがあります。興味の無い業界にも興味のある業務を見つけたり、Webで調べられないこと(雰囲気、福利厚生)がわかったり、他の就活生から刺激を受けたり、入社してからの違和感をなくすことができたり、インターンシップには様々な利点があります。

最後に、今年の夏休みを有効活用してほしい、というメッセージで、和田さんのお話は終了しました。

参加学生の感想をいくつか挙げます。

- ・インターンシップがいつ開催されるのか、今年や来年の自分を想像することができた。
- ・強み発見ワーク等、受講者による主体的行動が含まれていて良かった。
- ・自己分析により自分を改めて見直すことができた。
- ・就活のスケジュールなど、知っているようでなんとなくしかわかっていなかったことを詳しく知れた。

参加者 学生：80名、教職員：3名